群馬県がん患者団体連絡協議会

ニュースレター♪

2010年6月1日　第20号

～主な記事～

◇　あけぼの群馬　母の日キャンペーンを実施しました
◇　がん連協総会・交流茶話会を実施しました（7月）
◇　在宅療養・看取りを体験して①
◇　掲示板（群馬県議会との懇談会　他）

☆あけぼの群馬　母の日キャンペーンを実施しました☆

去る5月9日（日）、外は強風でしたが快晴のJR高崎駅においてあけぼの群馬主催の「母の日キャンペーン」が実施されました。
昨年に引き続き、短時間ではありますが、キャンペーン活動と並行して健康づくり財団の乳がん検診車を駅構内に駐車し、乳がん検診（視触診・マンモグラフィー検診）も行われました。

道を通りかかる人たちの関心は高く、若い女性も受付に近づいて「今日は検診してもらえるのですか？」など話しかけてくれました。

中には自覚症状のある方も見えて、看護師が時間をかけて、「早めに医療機関を受診してほしい」と話をする場面もありました。

新聞やテレビなどマスコミも多く取材に訪れ、関心の高さがうかがわれました。とある国会議員も移動の折り、「今日はどのようなことをされているのですか？」と尋ねられる一幕もあり、これからもますます検診に対する関心が高まればいいなと全員が思った一日でした。

総会・交流茶話会を行いました

平成22年7月3日（土）群馬県公社総合ビルにおいて、平成22年度群馬県がん患者団体連絡協議会総会（13：00～13：25）、交流茶話会（15：30～16：10）がそれぞれ実施されました。

総会では平成21年度の活動報告、収支決算、監査報告、22年度の行事予定、収支予算などが諮られ、承認をいただきました。
また、がん連協も発足以来3年が経過し、様々な医療機関や行政から意見を求められる機会が増えました。そこで、役員会の意思を受け、がん対策、医療の向上に向けた研究や勉強を行い、役員会に提言する「企画委員会」を立ち上げることとなりました。
当面、５～６名の希望者を募り、活動を始めたいと考えています。
また、意見交換では、各会の運営について不安なことなど意見も出されました。
今後、会の運営についても意見交換ができるような場があればと考えています。

がん診療連携拠点病院連絡協議会主催の市民講座が終了した後は、「がん連協交流茶話会」を実施しました。

思い思いにテーブルを囲み、お茶とお菓子で話が弾んだようです。患者会、医療関係者、行政担当者、学生など70名が参加しました。
意見発表では、子宮頸がん予防ワクチンの全額公費負担を取り入れた榛東村村議の方や、県のがん対策の取り組みについて県議の方が話をし、患者会からは生菜の会の岡庭さんと群馬ホスピスケア研究会の土屋さんが、それぞれ、患者から受けた相談で、老々介護の場合、治療や介護制度の利用についてもっと事前から連携して行い、人々が安心して暮らせないだろうか？　また、まちなかのがんサロンを作る試みを地域と連携して少しずつ始める予定だということを発表しました。

短い時間でしたが、有意義なものとなりました。

後方には、和やかに立ち話をする方達もたくさんいました。それぞれに交流を深めることができたようです。

在宅療養・看取りを体験して

…少し長～い編集後記①…　　がん連協　事務局担当：荒木美保

これまでいくつかのがんを克服し、5年前に新たながんを告知された私の父はがんとつきあいながら、先日、老衰で静かに旅立ちました。最期まで在宅を希望し、緩和ケア診療所の訪問診療・看護を受けていました。この経験が在宅療養を考えている方の一助になればと考え、この場を借りて2、3回に分けて少しお話いたします。

①　病院の治療から在宅療養へ

大学病院へ定期的に通い治療を受けていましたが、風邪が元で食べられず一時通院が困難になりました。これからどうしよう…検査入院も苦手な父、まだ治療を諦められない家族。普段から親しくしていた医療関係者に相談の上、以前仕事でお世話になった緩和ケア診療所に今後をお願いし、在宅療養をすることになりました。

【なるほど…と思ったこと】

☆在宅療養は患者本人だけでなく、家族の健康状態や生活状況まで気にかけてくれること。看護師との電話相談、医師との面談、じっくり時間をかけて希望を伝えることができました。我が家の高齢者は端的に症状や経過を伝えることが苦手なので、常々、通訳のつもりで、私が簡潔に用紙にまとめておきました。

②　開業医とも連携

大学病院で受けていたがん治療と同様のことを自宅近くの開業医でお願いしました。

これで待ち時間の縮小により体の負担が軽減しました。

こちらでも「大変ならいつでも往診に行くから」と言ってもらい、家を中心に開業医、緩和ケア診療所が協力して療養する態勢が整いました。

③　元気なときには歩き方、食事、生活習慣指導

食事が細くなり、歩かないとますます体力が落ちるということで、こうしたら少しでも食べられる、またこう歩くといいよという指導を受け、無理なく食べ、近所を散歩することで自信がついたようです。この頃、奮闘して携帯メールを覚え、散歩先から私の携帯に街の様子を知らせてくるようになりました。今も私の宝物です。

【予め読んでおいて役だった本】

健康と良い友だち社 「在宅療養をささえるすべての人へ…わが家がいちばん…」

在宅療養についてわかりやすく丁寧に書かれ、介護制度のことや、最期の迎え方まで優しく説明されていました。ある程度の心構えもできてきました。

④　要介護認定を申請するまで

なんとか平穏に過ごしていた父も、毎年摂取していたインフルエンザ予防接種を受けた午後に足腰が立たなくなり、手がしびれ、徐々に動きが制限されてしまいました。何が起こったのかわからず、1ヵ月後、専門医を受診しようと神経内科に紹介状を書いてもらいましたが、その日に歩行も困難になり、相談した結果、検査に時間を費やすより、自宅での生活を大切にした方がいいという結論になりました。医師はすぐにケアマネージャーに連絡をし、すぐに介護用のベットやサービスが前倒しで受けられるよう手配をし、私は市役所の介護高齢課に要介護認定の申請を行いに走りました。

平成21年12月の暮れのことでした。（次回に続きます…）

掲示板

いろいろな紹介です。
みなさんもお知らせ
を寄せて下さい。

☆　群馬県議会との懇談会を行います　☆

群馬県議会は議会サイドからの発議で「（仮称）群馬県がん対策推進条例」の制定を目指し、医療機関や患者、家族が取り組む活動について詳しく知り、がん対策についての意見を聞くため、7月30日（金）に群馬大学医学部附属病院・群馬県健康づくり財団と群馬県立がんセンターで県内調査を行い、健康づくり財団とがんセンターにおいては、患者会との懇談会を予定しています。

現在、各会にお願いし参加者を調整していますが、がん連協の課題でもあった市町村や県議会議員との交流・連携を計るよい機会です。それぞれの取り組みや希望についてがん連協としての意見をまとめながら懇談会に臨みたいと考えています。

懇談会の様子については次号でお知らせします。

－事務局に新しい仲間が入りました－

この度、がん連協事務局に健康づくり財団　健康支援課　大屋三枝子保健師がお手伝いとして参加することになりました。

昨年のがん患者ミーティング2009で群馬混声合唱団の指揮を努めたことでおなじみの、朗らかで明るい保健師です。
これから様々な行事で一緒に活動していきますので、どうぞよろしくお願いします　♪

絵：あらき♪

【群馬県がん患者団体連絡協議会　事務局】

〒371－0005　前橋市堀之下町16－1
（財）群馬県健康づくり財団　総務部　総務課

電　話027－269－7811
FAX027－269－8928
E－mail　soumu3@gunma-hf.jp

編集後記

最近わが家のブームは焼き魚に、近所の八百屋のおじさんが教えてくれた、「大根＆生姜おろしに酢をかける」を添えるが流行し、猫ちゃんのように食べています。家を別宅にしている本物の猫ちゃんに骨をあげて食べものを残さないエコを実践中です。

編集担当：事務局　荒木美保